

電波行政の動き

地上デジタルテレビジョン放送に関する浸透度調査の結果

総務省から、去る6月14日に地上デジタルテレビ放送に関する浸透調査の結果が公表されました。本調査は、地上デジタルテレビ放送に関する浸透度を定量的に把握し、今後の周知広報の取組みに反映させ、その円滑な普及に資することを目的に実施されたものです。

総務省では、引き続き地上デジタルテレビ放送に関する情報提供活動を行っていくとともに、魅力ある放送の実現に向けた環境整備に取り組む考えです。

調査結果の概要を紹介します。

1 地上デジタル放送一般に関する認知

地上デジタル放送に関する基礎的な認知はあがっているが、具体的な放送開始時期や停波時期など理解をより高め、受信機普及につなげて行くことが今後の課題。特に認知経路としてテレビ・ラジオのマス媒体以外に販売店頭の割合が2割と高いことから、流通でのアピールが重要と思われる。

2 アナログテレビ放送停波に関する認知

アナログテレビ放送の停波することは6割以上の人知っているが、2011年という認知は低い。近い将来（6年後）にアナログ放送が終わることについて周知を進めていく必要がある。

3 地上デジタル放送対応受信機の世帯普及率

地上デジタル放送対応受信機の世帯普及率は8.5%。購入の際、薄型テレビよりもハイビジョン放送を見たいという動機が強い。

4 受信機購入のポイント

地上デジタル受信機購入にあたり、最も重視するポイントは「価格」、次いで「画質、音声」、「操作性」が挙げられている。さらに価格帯は10万円以下が全体の約半数を占め、低価格帯の受信機を含め、受信機の早急なフルラインナップ化が求められる結果となった。

5 受信機買い替え時の対応

受信機を買い替える際の対応として、地上デジタル放送対応のテレビを購入するとの回答は半数近くに達しているが、アナログテレビを購入すると回答した層も若干（2.1%）であるが存在する。この層は高齢者の割合が高いという特徴がある。

6 地上デジタル放送視聴評価

地上デジタル放送の満足度は「満足・やや満足」を合計して半数を超えている。その満足の理由は「画質」が圧倒的に高い。逆に「やや不満・不満」の理由としてチャンネル数が増えていない、ハイビジョン番組が少ない（画質が良くないも同様）点が挙げられるなど、一層のコンテンツの充実が求められる結果となった。また、次にデータ放送が少ない、リモコンが複雑な点が挙げられるなど改善が必要と考えられる。

7 地上デジタル放送に期待すること

最も期待することとしては「画質や音質がよい番組の視聴」が挙げられているが、次いで「地域情報や災害情報」「データ放送でのニュースや天気予報」が挙げられており、家庭での情報端末としての新たな役割が地上デジタル放送に期待されていることがうかがえる。

8 携帯電話による地上デジタル放送視聴

来春サービス開始予定の携帯電話による地上デジタル放送についての評価は、便利になるなど肯定的な評価（40.6%）が否定的な評価（37.5%）をわずかに上回っている。また、利用意向ではサービス内容をみないとなんとも言えないとする意見が最も多いことから、サービス内容がイメージできないため実際に体験してもらうことが必要と言える。

なお詳細についてはhttp://www.soumu.go.jp/s-news/2005/050614_2.htmlを参照して下さい。

ARIBの動き

ITS情報通信システム推進会議平成17年度総会が開催される

去る6月16日（木）、ARIBが事務局を務めるITS情報通信システム推進会議（会長：豊田章一郎トヨタ自動車㈱取締役名誉会長）の平成17年度総会が、霞が関プラザホールで開催されました。

この総会では、豊田会長の挨拶の後、平成16年度の事業報告及び収支決算、平成17年度の事業計画及び収支予算並びに平成17年度の役員及び運営委員選任について審議が行われ、いずれも提案どおり議決されました。

豊田会長からは、カーナビ、VICS、ETCが順調に普及拡大しているところ、今後はITSに対するユーザーニーズの高度化を踏まえ、より一層の飛躍を期待したいとの挨拶がありました。



豊田章一郎会長



総会風景

「ITS情報通信システムシンポジウム」開催される

6月16日（木）ITS情報通信システム推進会議の平成17年度総会に引き続き、霞が関プラザホールにおいて、同推進会議の主催により「ITS情報通信システムシンポジウム2005」が、ほぼ満席の約220名の参加者を得て盛況に開催されました。

シンポジウムでは豊田章一郎会長の開会挨拶、有富寛一郎総務省総合通信基盤局長の来賓挨拶に続き、次の3つの講演が行われました。

山内弘隆氏 一橋大学大学院商学研究科研究科長兼商学部学部長

「経済の視点から見たITS」

森川高行氏 名古屋大学大学院環境学研究科教授

「プローブ情報を活用した動的経路案内システム (P-DRGS) について」

佐藤彰典氏 P-DRGSコンソーシアム技術開発部会副査

「P-DRGS研究開発活動のご紹介」

(P-DRGS : Probe-Dynamic Route Guidance System)

山内教授からは、経済学における技術革新とITSの位置付けを基に、ITSへの課題提起および普及・定着とさらなる発展を実現するための様々な提言がありました。

森川教授からはP-DRGSのシステムと効果についての説明があり、引き続き佐藤彰典氏からはP-DRGSの技術的観点からの説明と情報提供例のデモンストレーションがありました。

最後に、羽鳥光俊副会長から閉会挨拶があり、成功裏にシンポジウムを閉会しました。

なお、講演の概要はITS情報通信システム推進会議のWebサイトに後日掲載されます。

URL : <http://www.itsforum.gr.jp>



有富寛一郎
総務省
総合通信基盤局長



シンポジウム風景



羽鳥光俊
副会長



山内弘隆氏



森川高行氏



佐藤彰典氏

ARIBからのお知らせ

第110回技術委員会（通信分野）が開催される

第110回技術委員会が開催されましたので、その概要をお知らせいたします。

1 日時：平成17年6月22日（水）午後2時00分～3時30分

2 場所：当会第2会議室

3 議事概要：

- (1) 事務局長から、当会の事業概要の報告及び最近の情勢等を含めた、あいさつがあった。
- (2) 事務局から「2GHz帯IMT-2000（TDD方式）及び1.7GHz帯IMT-2000（FDD方式）の技術的条件の一部答申（情通審）及び1.7GHz帯又は2GHz帯の周波数を使用する特定基地局の開設に関する指針等に対する意見募集について」報告があった。
- (3) 事務局から「無線設備のスプリアス発射の強度の許容値の改正に伴うARIB標準規格等の改定に係る作業の進め方について」報告があった。
- (4) 次回の委員会は、平成17年8月24日（水）午後2時から開催することになった。

地上波デジタル・チューナー、40万台突破
【Les Echos,2005/05/30】

仏の地上波デジタルテレビ放送が始まって2ヶ月が経つが、受信のためのセットトップボックスの出荷台数が40万台近くになった。また、現在は、8万台/月のレベルで出荷されている。

9月には受信地域が人口の35%から50%に拡大されるため、9～11月は15万台/月の売上げが見込まれており、2005年末には約120万台の出荷を記録すると見られている。

地上波デジタル放送の本当の普及は、2006年に入り、チューナー付きテレビが販売されるようになってからで、3年後には販売される全てのテレビにチューナーが付く見込み。